

舊拓韓仁銘  
辛亥四月剪裝因題  
范父識於小云海

(題簽)

# 「落ち穂拾い記」⑯

## 『韓仁銘』(上)

図②韓仁銘整拓本



図③篆書碑額「漢循史故聞憲長韓仁銘」



図④近拓本の破損★部分

漢の隸書碑「韓仁銘」は、他の碑刻に比べて文字がやや大きく、伸びやかな波磔を具えた八分体の碑刻である。碑文も保存がよく、これまでに数件の原拓本を手にしてきた。整拓本で全体を確認すると中央上部に篆書の碑額題字が2行、10字(図③)が、碑文は8行、1行あたり19字である。碑文の右下の数文字が早くに失われたようである(図②)。碑文は、右側に偏り、左側には後に再発見され金の正大5年、6年の題記が楷書で刻されている。流布する拓本も宋拓、明拓などの旧い拓本は目にしない。現在見ることの出来る旧い拓本は、碑文の文字は、ほぼ破損がない。文字の破損状況に変化がある整拓本を数件と、影印本された旧拓資料と比較したことがあった。

前にも触れたが、始めて北京に行った時に、同行の丁書店の社長Y氏から帰国後、お土産として碑帖拓本を頂いた。北京の榮寶齋のところある部屋で拝見した書画等の中の一帖の剪裁本「旧拓韓仁銘」であった。清末民國期の著名な金石家・姚華(1876~1930、字は重光、茫父と号す。別に蓮華齋主、また弗堂とも称した。)の旧蔵本であり、題簽(右主圖版)、題跋、鑑藏印のある旧拓本であった。こうした名家の旧蔵本は、高くて大變得難いものである。図版に示した清末民國期の整拓本の下端の★印の付した6ヵ所の文字(図④)が、旧拓本は壊れていない。Y社長からの思いがけない嬉しいお土産だった。

# 書道芸術院 令和の群像（2021）



第71回毎日書道展「追憶」

柳町祥香書



柳町祥香

昭和53年7月、第30回毎日書道展で初めて書いた前衛書が初入選した私は、母と2人で八戸から上野の都美術館へ作品を見にかけました。まだ2人とも前衛書がどんなものかも知らなかつたので「何だかよくわからなかつたね」と言い合いながら帰途につきました。私の師匠は田名部房香先生です。小学校1年生の時に、習字を習いに通い始め、平

成17年に先生が亡くなるまでご指導をいただきました。前衛書を始めた頃は、筆を持ち墨で何でもいいから書けばいいと自由で楽しい書道だと思っていました。ところが、それは大間違い。2、3年も過ぎたあたりから線一本、点一個を書くのも駄目出しをされ、どうしていいかわからず途方に暮れることもしばしばでした。

そんな中での楽しみのひとつは、師匠の荷物を持ちながら、あちこちの先生の話を聞かせてもらう事です。

紙は自分が使う紙を自分で作る人。墨は墨汁を分離するほど置いてから使っている人。筆は「筆がない時は指があるさ」という人。いろいろな話を聞き、先生といえども

初入選から40年余り、私も還暦を迎える年号が令和へ変わった年の7月、何か節目になる作品を書きたいと、その年の毎日展で『追憶』という作品を発表しました。紙を選び墨を選び、長年の出会いを心に思い描きながら書き上げました。一輪の花のような作品が出来上がった時は、ほっと気持ちが穏やかになつたのを覚えています。作品を書くのは大変ですが、人との出会いで気づかされる書道の世界の面白さ、思い描いた作品を書き上げた時の達成感が、また私を次の作品へと向かわせます。前衛書の見方はさまざまだけれど、書く自分が見る誰かが、少しでも何かを感じる書を書きたいと心がけています。

苦労しながら作品を書いているんだなあと思つたものです。前衛書というものは、線を鍛え墨を知り、紙を選び余白の美を考えながら書き、最後に落款の位置を決め、色まで選ぶ奥の深い芸術です。手本もなくひとりで考えながら作品と向き合う孤独な作業が続きます。作品は独りよがりではない、止まつてはいけない」とは常に新しさを求めていました。前衛書を始めた頃は、筆を持ち墨で何でもいいから書けばいいと自由で楽しい書道だと思っていました。ところが、それは大間違い。2、3年も過ぎたあたりから線一本、点一個を書くのも駄目出しをされ、どうしていいかわからず途方に暮れることもしばしばでした。

前衛書というものは、線を鍛え墨を知り、紙を選び余白の美を考えながら書き、最後に落款の位置を決め、色まで選ぶ奥の深い芸術です。手本もなくひとりで考えながら作品と向き合う孤独な作業が続きます。作品は独りよがりではない、止まつてはいけない」とは常に新しさを求めていました。前衛書を始めた頃は、筆を持ち墨で何でもいいから書けばいいと自由で楽しい書道だと思っていました。ところが、それは大間違い。2、3年も過ぎたあたりから線一本、点一個を書くのも駄目出しをされ、どうしていいかわからず途方に暮れることもしばしばでした。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

公益財団法人書道芸術院  
定例評議員会開催 評議員改選

6月5日公益財団法人書道芸術院定例評議員会が、現下のコロナウイルス蔓延の影響にて、やむなく書面審議を余儀なくされながら開催された。

令和2年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決された。  
任期満了(4年間)に伴う評議員改選は、定年規定による退任4名を除いて全て再任された。新しく選任された4名は部門間、総支局などのバランスを考慮して行われた。

・新評議員 前田龍雲(漢・関西)

西川翠嵐(漢・北関東)  
武山櫻子(現・東北)

知野洛水(前・北関東)  
・退任者(参事に就任)

飯田春香、加瀬春、西岡雨瑠、  
佐藤香山

その他詳細は院報にて。

6月定例理事会書面にて開催  
第75回記念展運営委員会開催

6月19日開催の定例理事会は、やはりコロナウイルス蔓延の影響による緊急事態発令下のため書面審議に切り替え開催された。

前項の参考推奨審議、75回展関係人

事などにつき審議した。

引き続き第75回記念書道芸術院展運営委員会がやはり書面での原案審議を行い、展覧会開催要項、当番審査員、審査事務委員など人事の決定を行った。詳細は今後発行される75回展開催要項にてご確認いただきたい。開催要項は8月下旬に会員・出品予定者に送付される予定。

8月下旬に会員・出品予定者に送付される予定。

書道芸術院単位認定講習会  
東京会場は定員越えにて開催

コロナウイルス蔓延の影響により当初開催予定であった岡山会場から急速東京にて本部主管で受講生を少數に減じて開催するが、6月15日締切時点で60名の定員を若干オーバーしたが会場のスペースを工夫して希望者全員を受け入れることとした。基本的に日帰りで、懇親会などは行わない。

・日時 8月21・22日

・会場 東京文具共和会館(浅草橋)

・講師 漢字(名越蒼竹)  
かな(下谷洋子)

現詩(辻元大雲)  
篆刻(小林古径)

書写(広瀬舟雲)  
院史(辻元大雲)

（公社）全日本書道連盟役員改選  
本院辻元大雲副理事長(事務局長  
兼務)、下谷洋子理事に就任。

6月3日上野精養軒にて総会が開催され、令和2年度事業報告、同決算報告が行われ承認された。

任期満了に伴う役員改選が行われ、左記の通り決定した。(○新任)

（一財）毎日書道会評議員会・理事  
会開催 評議員ほか改選

一般財團法人毎日書道会でも任期満了に伴う評議員の改選が行われ、新聞

社人事異動による理事総務などの選任も行われた。(院関係は変更なし)

併せて令和3年度書道顕彰決定

再任評議員19名、新評議員9名

任期満了の評議員9名  
新総務4名 新参事6名

令和3年度書道顕彰3氏に

(芸術部門)  
佐伯孝子氏(前衛・奎星会)  
澤江抱石氏(大字・独立書人団)

齊藤瑞仙氏(刻字・千秋会)  
・監事 ○大谷洋峻、○遠田白雲  
○山内香鶴  
(新のみ)

・事務局長 辻元大雲(兼務)  
○下谷洋子、○宮負丁香

\*創立70周年記念「全日本書道連盟70年史」はほぼ完成。6月末には会員へ送付される予定。付録の「書塾運営ハンドブック」(仮称)は現在鋭意編集中、今秋末位に発行される予定。

第72回毎日書道展関係  
・かな部入賞審査は1週間前倒しで6月18～20日に行われ、その他の部門は6月25～27日に国立新美術館にて行われる。

・表彰式 7月18日(日)ザ・プリンスパークタワー東京にて、参加者を毎日賞以上に限定し、秀作賞以下はU23含め代表者に授与。簡素化して行われる。

・会期 7月15～25日

本院常務理事・かな部で多方面にて活躍中の下谷洋子氏が、名門会場の銀座和光の要請により個展を開催する。全て新作による50余点は必見の内容。多くの方々のご高覧を。

下谷洋子書展＝上州の韻きこよなく・かな＝銀座和光ホールにて開催

（公社）全日本書道連盟役員改選  
本院辻元大雲副理事長(事務局長  
兼務)、下谷洋子理事に就任。

6月3日上野精養軒にて総会が開催され、令和2年度事業報告、同決算報告が行われ承認された。

任期満了に伴う役員改選が行われ、左記の通り決定した。(○新任)

（訂正とお詫び）

6月号(72)本欄中の「日本の書」の紹介文中に誤りがありました。「和久井要」は誤りで、正しくは「和井田要」です。訂正をお詫びいたします。

3

## かな基礎基本講座(14)

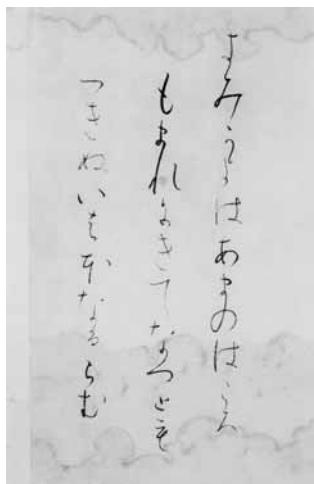
下谷洋子

### 何行かに書く

行について学んで来ましたが、かなは通常、何行かに俳句や歌を書く（行書き、散らし書きと言う）わけです。

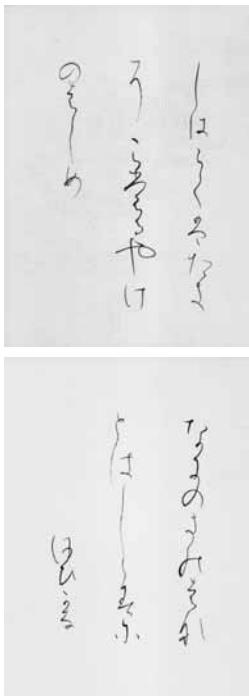
その場合、それぞれの行に役目があります。無鉄砲に書いたのでは、全体がバラバラになりますとまりません。ここでは、行と行のかかわり方を見ていきます。いずれ、かな独自の散らし書きに進むためには必要な学習です。

古筆は『蓬莱切』（伝藤原行成）を取り上げました。



もと、長崎県平戸藩主松浦家に伝来した巻物。一首を3行から4行に書写し、書風は『高野切第三種』と類似している。

### 参考例



しばらくは瀧に籠るや夏の始め

何の木の花とは知らず白ひかな

## 現代詩文書基礎基本講座(14) 小竹石雲

### 【臨書から現代詩文書への展開】

#### ① 雁塔聖教序風のひらがなの表現方法

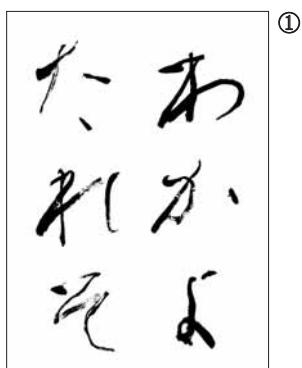
筆先を大切に細線で緩急抑揚をつけて書いた。筆のもつ性能（開閉・弾力・拗れ）をいかす訓練を。マスターするには長く時間がかかる。時間をかけないと深まらない。身につくまでやるしかない。身についてからがスタート。書き続けるうちにその人独自の香りが出てくる。高貴な雁塔の香が漂うようになればと思っている。

#### ② 雁塔聖教序風の現代詩文書

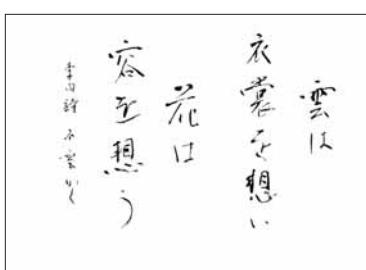
・臨書から現代詩文書に一気に発展させることは、危険性を伴う。

原本の本質を十分理解した上での発想、展開表現となつていかなければならない。雁塔だけ解れば良いという問題ではない。

そして雁塔の持つ美の解釈は各々違うと思うが、自分で感じる眼と表現する手を養うことが大切に思う。細線の書きの美しさに見とれこの詩を書いてみた。少し作るなりすぎたようにも思っている。



①



②

## 令和3年度 新審査会員作品

藤原 利苑（現）・小林 舟驥（漢）・佐伯 哲哉（漢）・佐野 文子（漢）



藤原利苑  
(岡山)

「蝶々」



この度は審査会員への昇格ありがとうございました。小竹石雲先生に御指導をいたしております。今回は正岡子規の「ひらひらと蝶々黄なり水の上」の俳句を書きました。柔らかな印象の句を表現する楽しさや喜びがあります。今後も研鑽を重ねて参りますので宜しくお願い致します。

(利苑)



佐伯哲哉  
(鳥取)

「蓄」

この度の審査会員昇格、大変光栄に存じます。いつも御指導下さる名越蒼竹先生、山陰支局の皆様、そして家族の支えに感謝致します。今後ますます美しい花を咲かせられるよう、楽しみながら書道の道を歩んでいきたいです。

(哲哉)



「氣」

この度は審査会員に昇格させていただきありがとうございます。いつも御指導下さる大野祥雲先生はじめ、諸先生方に感謝申し上げます。「氣」を書いたのですが、新たな気持ちで、元気に楽しく、そして、先生の教えを心に刻み、精進してまいりたいと思っております。

(文子)



小林舟驥  
(千葉)

「光陰如流水」



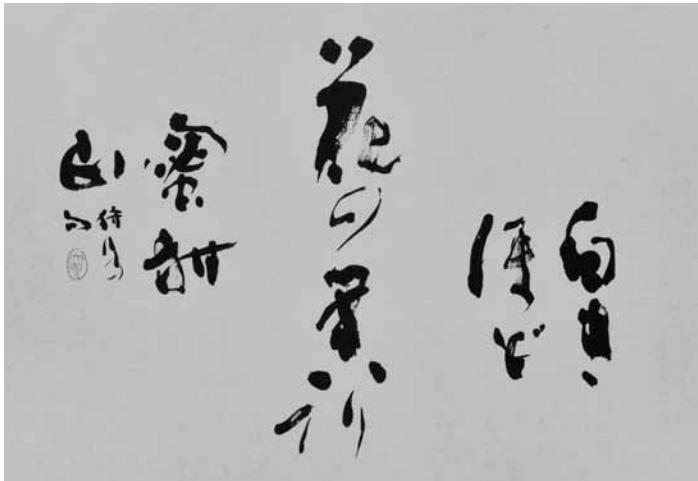
(舟驥)

# 第39回 日本詩文書作家協会書展

## —詩歌と書の世界—

2021年6月8日[火]—13日[日] セントラルミュージアム銀座

主催=日本詩文書作家協会 後援=毎日新聞社・全日本書道連盟



鷹羽狩行「白きほど」

辻元大雲書



鈴木比呂志「万葉ロマンの旅」

下谷洋子書



寺田寅彦「客觀のコーヒー…」

小竹石雲書



高橋新吉 「じゃがいも」

浜田 堂光書



有馬朗人「山を裂き銀河…」

種谷 萬城書



自作「白と黒のハザマ」

坂本素雪書



片山由美子「柚子咲くや…」

田村 鄭雲書

温泉銘  
おんせんめい(唐・太宗皇帝)  
(たいそう)

〈解説〉温泉銘は、貞觀22年(648)唐の第2代太宗皇帝が驪山温泉(陝西省臨潼県)の効能や風物について自ら文を撰し、自ら書き碑に刻した。碑石は早くに失われたが、20世紀の初頭(1908)にフランスのポール・ペリオが敦煌の石窟から唐代の拓本を発見したことにより初めて

世に出た。この拓本は現在、フランスの国立書館に収蔵されている。巻頭部分を欠くが、剪装された巻子本で天地約27センチ・長さ143センチ。全50行、およそ350字からなる。温泉銘は筆を自在に抑揚させ、骨力豊かで皇帝らしいスケールの大きな見事な行書である。

(編集部)



(掲載図版・83%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

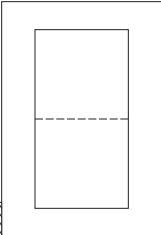
漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内・2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

じかくじつ。

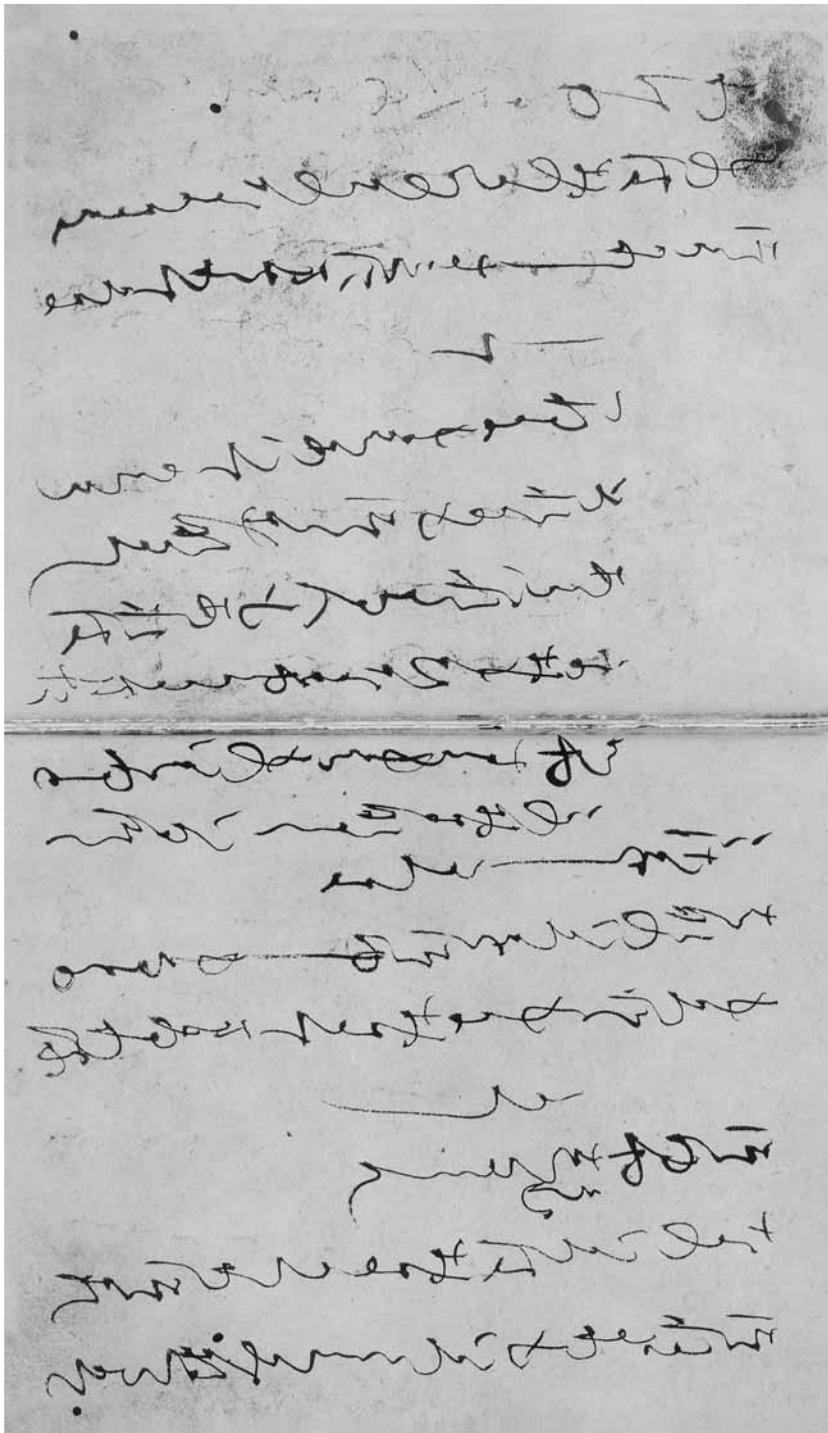
※古筆は原判(以下可)で臨書

貼付位置  
出品品券  
→



&lt;半紙ヨコ形式に限る&gt;

(個人蔵)



※掲載図版・85年小説

(伝西行)

一 条 摂 政 集

①

B.A. 小品の部	大作の部	毎日履養会員資質以内外×2尺・全紙可	以上半切以内×2尺・全紙可	左記の古筆の摺版断して貼付可。半紙を摺版して貼付可。半紙は半寸×スイズ切て使用のとく。	特別研究部臨書課題
-----------	------	--------------------	---------------	---	-----------

古筆鑑賞

208



種谷萬城

磨而不磷

(「論語」)

(磨けども磷らがず)

「いくら研いでも薄くならない。  
どんな環境にあっても変わらない  
精神」が語句の意味です。北魏の

龍門造像記風に倣書しました。点  
画が角張り、豪放で迫力ある魅力  
に溢れた書風を求め、剛毫筆、濃  
墨を用い、力強い起筆、送筆、收

筆で、気迫を込めて書きました。  
左の作は行書。躍動感溢れる「伊  
都内親王願文」の倣書です。多く  
の古典から、様々な魅力に溢れた

書風を学び、楽しみましょう。

参考作品



磨而不磷 よみ(磨けども磷らがず)

書体=自由



習い方解説 四

千葉 蒼 玄

流觴曲水  
(流觴曲水)

\*「觴」は杯、「曲水」は曲がりくねっている小川

蘭亭序の曲水の宴とは、酒の入った杯を小川に浮かべ、自分の前を

流れていってしまう前に詩を作つて、酒を飲むという風流な遊びのことだが、旧暦の3月3日に行わ

れた。日本では内容が変つたが、

難祭りの節句である。

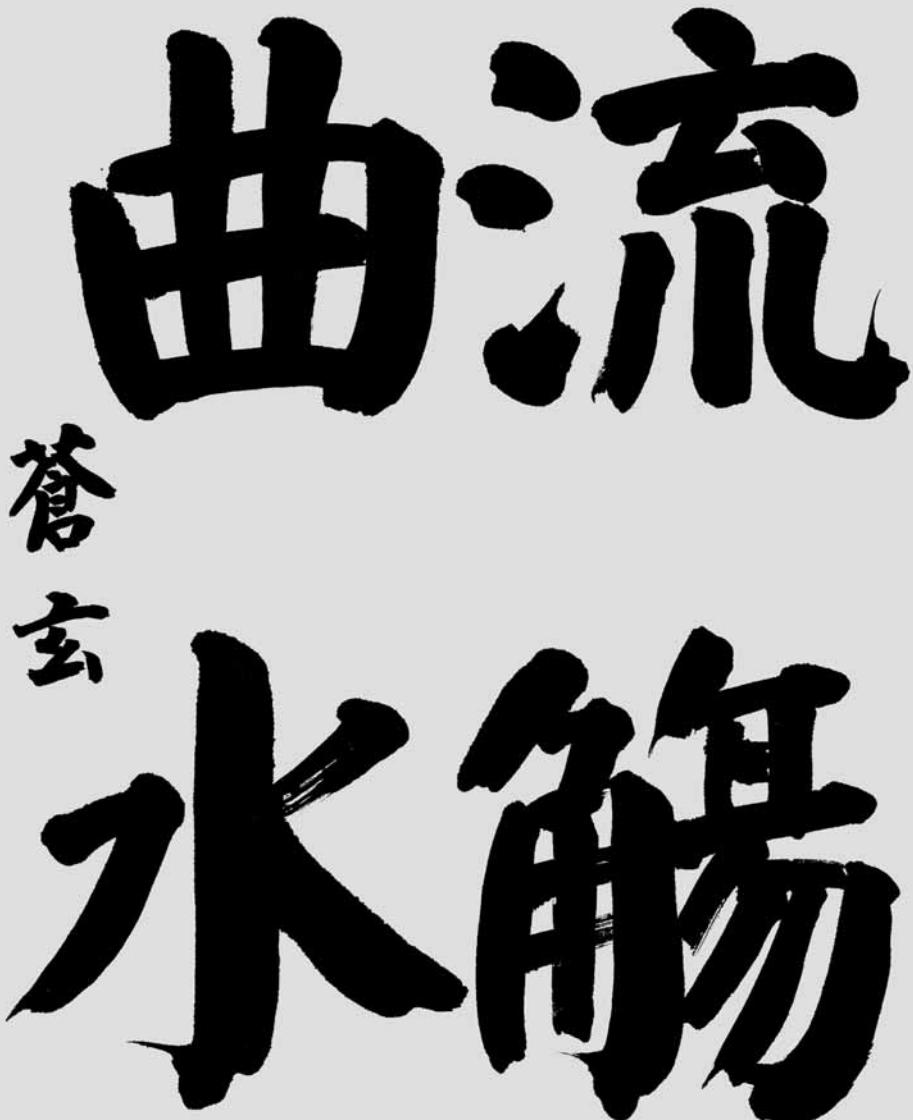
顔真卿はそれまでの方筆の楷書と違い、篆書から円筆の用筆を作り上げたとされる。先月の造像記と両極だがこの二つを極めればすべての筆使いができるといつても過言ではないのではないだろうか。

〈建中告身帖〉



流觴曲水 よみ(りゅうしやうくす)

書体=楷書



習い方解説

平川峰子

やまとよつぶきぐるかせをよもすが  
やまの「ぬれにききあかしつつ  
(会津八一)

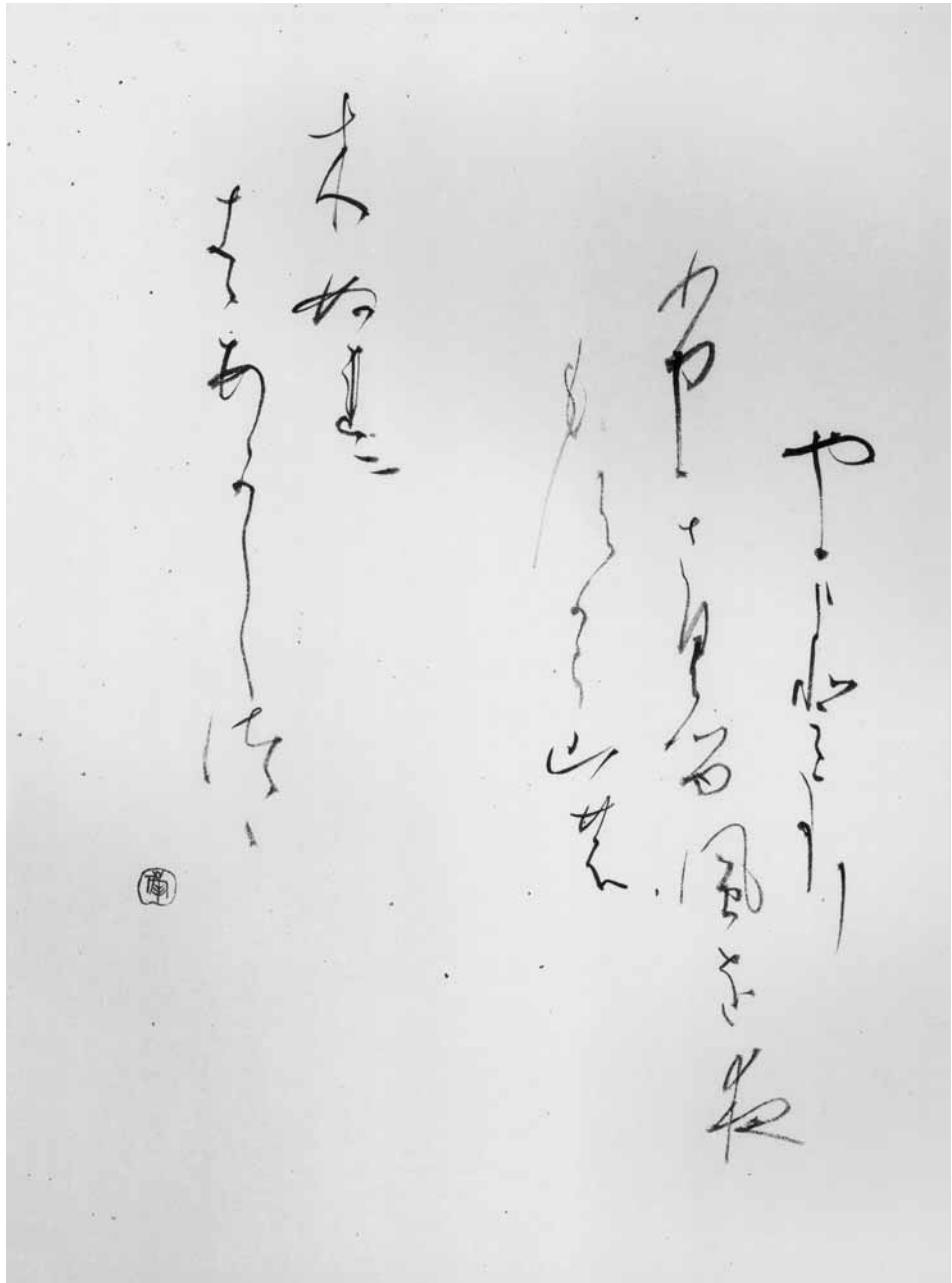
「なつかしい大和からやってきて山  
のこずえを吹き鳴らす風の音を太  
子は夜通しお聞きになつておられ  
るだろう」の意。河内国磯長の御  
陵にて聖徳太子をおもう歌です。

会津八一(1881~1956、号は秋艸道人、  
美術史家・歌人・書家)は奈良の唐  
招提寺などに歌碑があり、かな書き  
の万葉調の多くの歌を残しています。  
墨継ぎは山でしましたが、最初に  
墨を多めに含ませておいてください。  
墨継ぎの前の数文字のかすれは作品  
全体を立体的に見せてくれます。  
かな作品は散らし(構成)と連続  
の美しさが求められます。変体がな  
は字典を見ていろいろ変えてみてく  
ださい。

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)  
を使用しましょう。

創作

よみ方 やま(刀)と(登)よつぶ(布)きく(具)る(留)かぜ(風)をよ(夜)もす(須)が(弓)ら  
やま(山)の(農)こ(木)ぬれ(連)に( )き(支)き( )あか(弓)しつ(徒)つ( )



かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 ひさか(可)た(多)のく(久)もの(能)うへに(尔)て(印)みるき(支)く(久)は  
あまつほしとぞ(所)あやまたれけ(介)る(累)敏行

### 習い方解説 (一)

小島 孝予

書れぬめり今日待ちつけて七夕は  
うれしきにもや露こぼるらん

(西行「山家集」)

西行の和歌です。漢字の今日、  
七夕・露の配置を考慮して、七夕  
を2行目最初に置きました。1行  
目を12文字にすることで天地に余  
白が生まれます。そして最後のら  
んは、こぼるを右へ引きそこに寄  
り添うように置くことによって、  
2行目全体がスッキリとします。

適切な文字の配置と余白を活かし  
流麗な作品に仕上げましょう。

よみ方 蕁(久)れ(連)ぬめ(免)り(利)今日待(万)ち(連)つ(川)け(介)て七夕は(者)  
うれ(禮)しき(起)に( )もや露こぼ(保)るらん

創作

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

## 習い方解説 四

辻元大雲



稻花香満雨初足 梧葉聲清風正寒  
(稻花香満ちて 雨初めて 足り 梧葉声清くして 風正に 寒し)  
(舒頤)

書体=自由

今回も夏の風情の句です。雨が充分に降り、稻も花を咲かせて芳しく香り、涼やかな風が青桐の葉をそよがせる。  
しつとりとして平明な行書單体で表現してみました。やや細身で明るさと爽やかさを意図しております。

筆や紙、墨もいろいろ取り替えて楽しみましょう。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半田藤扇

今月は6字句の行書です。

技巧に走らず、穗先に神経を使い丁寧でなおかつ、自然な運筆で心がけてみませんか？羊毛筆が的確と思います。

また、硬めの筆で試みるのも表現・線質も変化します。さらに筆勢も加わると、響きある作品となるでしょう。

書体=自由

樂者心之動也 (禮記)  
(樂は心の動くなり)



\*羊毛筆を使用

川村美泉

名も知らぬ遠き島より

流れ寄る柳子の実一つ

故郷の岸を離れて

汝はそも波に幾月

唱歌 柳子の実 美泉書

書体=自由

伊良湖岬に滞在した柳田國男が浜に流れ  
着いた柳子の実の話を島崎藤村に語り、藤  
村がその話を元に創作した詩です。あまり  
にも有名ですね。

今は、漢字の多い課題です。行書を主  
としましたが、書体自由ですので色々な書  
体で書いてみてください。

字間が詰まりすぎると窮屈になりますの  
で、間も考えながらゆったりとペンを運び  
ましょう。

名も知らぬ遠き島より  
流れ寄る柳子の実一つ  
故郷の岸を離れて  
汝はそも波に幾月

唱歌「柳子の実」

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(4.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

盛夏ご清榮ご健勝 厳しい暑さ  
盛夏ご清榮ご健勝 厳しい暑さ

セタ祭りの笹の葉に願いの短冊を吊るす

セタ祭りの笹の葉に願いの短冊を吊るす

大平邑峰

(楷書) 盛夏 ご清榮 ご健勝 厳しい暑さ  
(楷書) 七夕祭りの笹の葉に願いの短冊を吊るす

(行書) 盛夏 ご清榮 ご健勝 厳しい暑さ  
(行書) 七夕祭りの笹の葉に願いの短冊を吊るす

基本用語 「盛夏」夏の季語。「ご清榮・ご健勝」相手の健康を寿ぐ、頭語に使用する言葉。

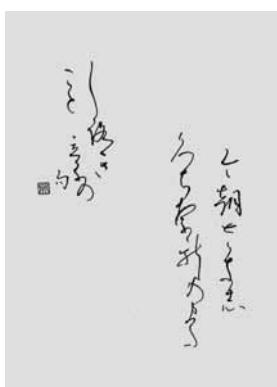
- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

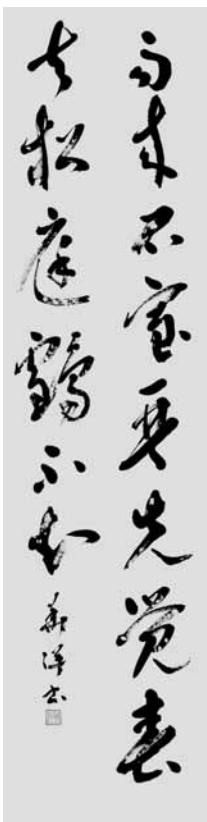
# ホープ作品 各部総評

No. 721

かな部 師範 小峰美加子  
暢達した書線に魅力あり。運筆  
穩やかで構成も変化させて、余白  
を生かした清々しい作品となった。  
◎かな部総評 紙面に対し、文字  
の大きさの不適切な作品がありま  
す。極端に小さくならぬようバラ  
ンスを考慮してほしい。(東舟評)



かな条幅部 準師 宮野鼻満津枝  
丁寧に手本を理解し、バランス  
よく収めた。さらにリズムの運速  
が加えられるよう書き込みたい。  
◎かな条幅部総評 横物は1行の  
文字が少ないためリズムが出しにく  
かったようです。普段から拡大臨  
書などで練習してほしい。(洋子評)



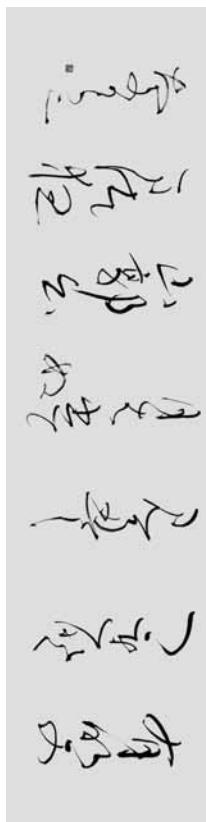
漢字条幅部 師範 大泉 華洋  
長閑な情景を詠んだ句に相応し  
い、温雅な書風。柔らかく温かみ  
ある渴線が美しく、品性高い草書。



◎漢字条幅部総評 作品の良否は  
線質、造形、章法、余白が決めま  
す。いずれも不斷の学書が基礎です。  
地道に磨いて下さい。(萬城評)



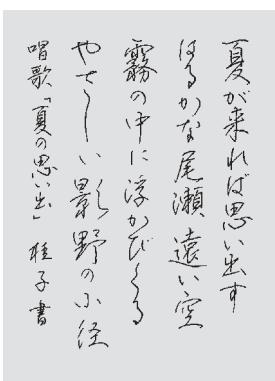
現代詩文書部 特選 西山 美龍  
練度の高い線質、計算されたか  
のような空間構成、真綿のような  
渴筆、重厚な潤筆が輝きを放す。  
◎現代詩文書部総評 表現豊かな  
作が多数で意欲が感じられたが、  
選考の厳しさに直面。(無極評)



前衛書部 特選 廣瀬 幸枝  
何百年も生い茂る奥山の森林風  
景が見えてくる。潤渴と余白のコ  
ントラストが立体感を生み見事。  
◎前衛書部総評 躍動感と創意工  
夫ある作品多数。用具用材の知識  
を活かした表現を望む。(蓮紅評)



ペン字部 師範 斎藤 桂子  
伸びやかな線條が魅力的な作。  
落款の処理まで見事に統一感があ  
り、今後が楽しみです。  
◎ペン字部総評 全体的に字形が  
整い美しい作品が多くなった。さら  
なる完成度の高いペン字作品を期  
待します。(仙草評)



漢字部 師範 田中 一葉  
木簡帛書風にのびやかで味わい  
深い作。厚味のある筆致がしつと  
りした雰囲気も醸し出す。  
◎漢字部総評 上級やや平板な作  
多く、もっと意欲的な表現を望む。  
下級楷書は着実さを感じるも、書  
風の多様さ不足気味。(大雲評)

## 実用書優秀作品

選評 汗 元 大 雲

### ◎実用書部総評

資格の上下を問わず多く方の応募がうれしい。用紙の選択で、にじみすぎや、かすれが目立つなど、残念な作多し。

(大雲評)

全体のバランスよく、楷行とも筆使いが丁寧です。

特選 仙北屋 峰雪  
 至急 返信 緑樹 青葉が目に  
 至急 返信 緑樹 青葉が目に  
 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟  
 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟  
 仙北屋峰雪

のびやかな筆致で、落ち着きある表現です。落款も丁寧。

特選 高木 百合子  
 至急 返信 緑樹 青葉が目に  
 至急 返信 緑樹 青葉が目に  
 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟  
 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟  
 高木百合子

螢	紅東	高大	竹扇	もく	雪瑠	総真	雲	大扇	千葉	大生	紅瑠	八街	大雲	紅瑠	八街	高崎	A I	高	桺江	もく	
佳	作	品	秀	秀	佳	作	品	秀	森	深大	千葉	潟	高木	百百合子	廣戸	荒谷	鷺山	弘	大	雲	佳
小金井	薄岩磯	新井	青木	渡辺	本島	中島	東平	多胡	竹浪	高奥	木村	太田	相澤	美岐	美梢	美岐	美梢	美岐	松	山	佳
池	井田	上貝	みどり	春綠	藤	郁	春	妙華	美子	綱	千代	舟	良子	敷子	(60書)	(60書)	(60書)	(60書)	森	田	佳
穂	蘿	麗	蓮	綠	春	郁	華	妙	華	綱	子	美	良	敷子	和	和	和	和	翠	香	佳
美	風	流	心	美	江	嘉	衣	華	藤明	英	甘	郁	叙	良子	翔	幸	翔	幸	翠	香	佳
美	風	流	心	美	江	里	惠	瓊	成	二	雨	孝	子	子	和	和	和	和	翠	香	佳
外	(選外)	惠	宗	大	華澄	八	A	江	春	琇	紅	た	洞	大	東	もく	澄	紅	桺	遊	天
522	渡	茂松	前	深保	藤	東	林	原	原	西	波	畠	土	鶴	田	高	春	瑠	草	真	満
氏名略	名	邊木永川	澤谷	平原	美	島	澤	島	澤	西	瀆	村	川	嶋	代	居	早	芝	松	亞	風
信	絵	香瑛	佳	美昌	哲	春奈	雄	永竹	早	松	藤	京	雄	一	翠	希	香苑象花	香	象	翠	繪
代	水秋	仙月芳	子	子	城子	汀	英	竹	松	芝	松	惠	春	翠	翠	翠	翠	翠	翠	翠	翠

本月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 半田藤扇 白石和楓 倉林紅瑠

## 小品の部

臨書

(澄春会)

土屋恵仙「鄭羲下碑」

135×35cm

平東將軍光州刺史敬其官  
榮也先時假公太常也寵才德相承海內

35×135cm

部分拡大

土屋恵仙臨

◆北魏の楷書、ゆるやかなうねりが紙面に表現される。大きなリズムの中で堂々と見応えの作となつた。

(藤扇評)



眞野和子臨



前衛書 (大括社) 佐藤陽子 「唱歌」

佐藤陽子書

135×35cm

135×35cm

現代詩文書 (四枝社) 大友四峰

「吉田一穂の詩」



大友四峰書

35×35cm

◆墨量のある線に緊張感がある鋭い線が響きあつて定感あり。

(和楓評)

創作の部	漢字	漢字の部			
		前衛書	現代詩文書	漢字	漢字
漢字	かな	1	34点	1	17点
前衛書	漢字	1	0点	1	6点
現代詩文書	漢字	1	0点	1	5点

総出品点数  
72点

〔特選候補者〕  
(創作の部)

「漢字」

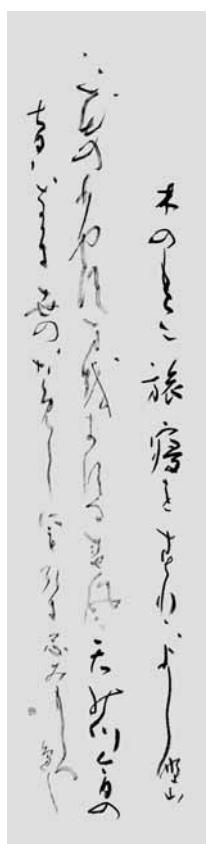
A I 藤村 昌子  
卯月木村 清琳  
花埜 高橋  
及川 豊流  
坂本 梅田  
大雲 池田  
蒼風 笹木  
椿花 沙静  
植松 関泉  
紅瑞 松本  
四谷 平田  
若葉 秀翠  
千葉 秀翠  
大雲 名取  
山口 奥村  
工藤 美楓  
大雲 工藤  
千葉 松村  
山口 美楓  
大雲 美楓  
山口 美楓  
〔臨書の部〕  
〔漢字〕

◆すつきりとした清爽感を丁寧にリズムよく運び、特に渴筆の長い連綿は見事な氣韻を醸し出した。(洋子評)

◆半切縦長形式に上下のリズム・流れがよい。紙面明るく空間処理も巧み。さらに黒色を工夫し、強烈な線を盛り込みたい。(紅瑠評)

# 大作の部

かな (和平) 井上英二 「吉野山」



井上英二書

224×53cm

◆柔らかな温雅なタッチの大字  
がな。2行目の大らかな渴筆が  
見所で、風紋のように息長く流  
れ落ちる。  
(洋子評)

市川紫泉書

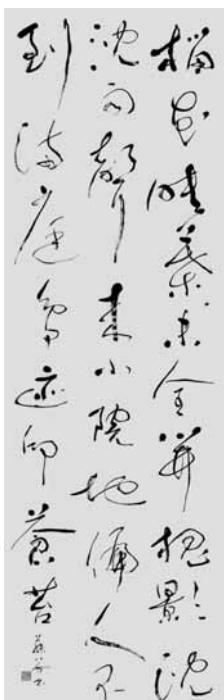
60×180cm



◆1行に疎密、大小を  
表す。小気味良く  
表現され、  
横線が絶妙  
で魅力溢れ  
る。バランス  
が良くて、熟  
達の見事な  
書。

(和楓評)

漢字 (もくせい)  
森田藤谷  
「夏日西齋卽事」



森田藤谷書

176×55cm

◆良寛風の書きぶりは、習熟しないと生まれでる線ではない。天空を舞う運筆と文字構成がマッチした。

(藤扇評)

前衛書 (容洲社) 阿部邑里 「緑萌ゆる」



阿部邑里書

79×180cm

◆瞬発力ある  
用筆から生ま  
れる飛沫が効  
果的。リズミ  
カルな運筆が  
紙面全体によ  
く展開し、表  
情豊かにまと  
めた。

(紅瑠評)

洞英英華紅紅千葉かな書峰祥瑤瑤葉書の部  
白紅珠瑤紅珠瑤白蓮一紅白蓮  
安吉佐加金相竹浪藤瀬藤井みど敷叙  
猪又青山熊谷千葉平野今関  
理扇楊彩桂雅香芳り子舟和成徳り彩珠香  
葉かな書峰祥瑤瑤葉書の部  
白紅珠瑤紅珠瑤白蓮一紅白蓮  
安吉佐加金相竹浪藤瀬藤井みど敷叙  
猪又青山熊谷千葉平野今関  
理扇楊彩桂雅香芳り子舟和成徳り彩珠香

総出品点数  
62点

創作の部(40点)

漢字 - 5点

かな - 6点

現代 - 9点

前衛 - 20点

臨書の部(22点)

漢字 - 21点

かな - 1点

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



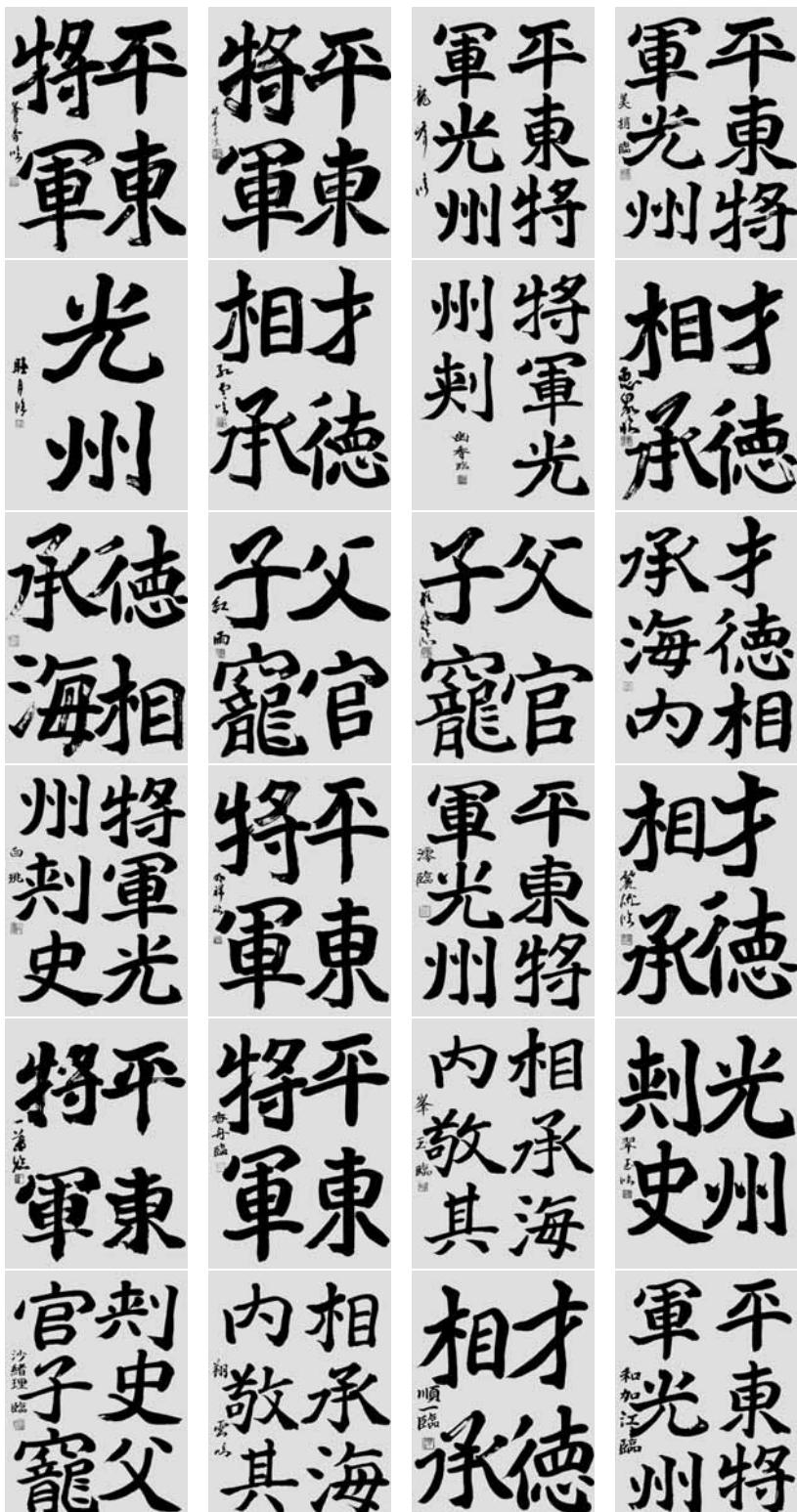
玉潤良章

漢字研究部 特選 玉潤良章

織細かつ大胆、ゆったりと雄大な書風を捉えようと努力した跡がうかがえます。落款から、いろいろな法帖に向き合って「書」と対峙していること、うねるような線質、伸びやかな表現にさらなる可能性を感じます。

◎漢字研究部総評

それぞれの法帖を「見て、感じて、考えて、書く」ことを私は、若者たちに言います。



沙一白泰睦蒼  
緒理葉珧香月香

翔香明紅紅裕  
美雲舟祥雨雲子

順峯雅幽龍  
澤一玉悠香峰

和翠麗惠惠美  
加江玉流雲泉梢

「見て、書く」「見て、感じて、書く」ことの違いは、手に取るように伝わってきます。その中に、「考えて」が加わると、そこからさらに特徴を捉え、線の強さ、深さにつながっていくようになります。ひたすら書くのではなく、上手な人の書いているところを見て、違いを「感じる」「盗む」こともお勧めしたいと、僭越ながら思うところです。

將軍東

將軍東

平東將

平東將

光州

相才德

才德相

才德相

承德海

子父官

承海內

承海內

州刺史

將軍光

才德刺

光州

將軍平

平東平

刺史

刺史

軍官子

相承海

才德承

東將

沙一白泰睦蒼  
緒理葉珧香月香

翔香明紅紅裕  
美雲舟祥雨雲子

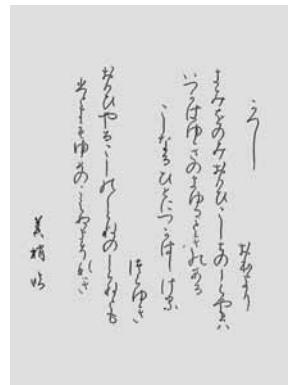
順峯雅幽龍  
澤一玉悠香峰

和翠麗惠惠美  
加江玉流雲泉梢

かな研究部  
(高野切第三種)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



鷺山美梢

かな研究部 総評

筆先に力を込め、落ち着いた作品です。平なと草がなのバランスをよく理解し、端麗な連綿線を表現できました。ゆったりとした雰囲気が出ています。

かな研究部 総評

かなの美しい字形。線質を作品の中で緊張感をもって、いかに正確に臨書していくか難しいところです。「ゆ」だけでも、4通りあります。違いを表現してほしいです。

かな研究部 成績表

和雅道 敬泉子		香和朗子		春幹永華生簞		杏佳和邑恵美	
華大誠白澄光白雲和鷺春彩珠秀	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	柴飯片藍中中永大北高吉後河高三田楳早宇飯浜齋苗七五三	特選	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
板礫石池阿浅相垣貝崎田部川内結み冬久冬沙那鳳蘿雨美華江莉	阿淺相垣貝崎田部川内結み冬久冬沙那鳳蘿雨美華江莉	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	柴飯片藍中中永大北高吉後河高三田楳早宇飯浜齋苗七五三	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
玉松佳	昌椿石大苑翠雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
青木作	吉安松堀深廣林萩根西利土田高須鉢新清島嶼込小小工菊金勝鋸小鶴岩伊田	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
葵郷	千葉喜	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
岩正大塙菊入	大こ明東華桜華誘は青洞桂清た大立紅や高桜青菊華玉大	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
石生安新崎川駒藤井知	六吉吉山柳守樺林長沼中中德樺穂千田田武高高島篠佐佐境小小高黒草川金加葛鹿貝岡大梅岩岩井市石池浅青波野田本瀬友口谷田村江泉田田烟玉井橋塚藤久野林口武柳刈元崎子藤	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
正津萩美惠子花悠子	千葉喜志美羅千	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
玄千有	有	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
芳こ竹幸己青	青	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
選芳	竹幸己青	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
199渡吉横山山山山谷矢	八木村富宮三三真松松松增前本堀松船平平隙原林林早長野根二永永中中中中中土豊戸渡寺塚名邊野山本根崎口口知口木柳上野内田澤庭嶋重尾浦田多江津木山山尾澤	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			
名信	横山梅美	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	正水書紅上春書渡こ卯京颶大竜天高上澄うた潮櫻書大華海泉瑤泉汀泉辺だ月橋菱雲井泉春るか音草泉雲	鷺山香川春幹永杏佳和美梢			

## 〔特別昇段級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集字聖教序（行書）

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



外儀令望除秘書郎。儀麟閣而來。儀。

蓋聞二儀有像。顯覆載以含生。四時無形。潛寒暑以化物。是以窺天鑑地。庸愚皆識其。



形潛莫覩。在智猶迷。况乎佛道崇虛。乘幽控寂。弘濟萬品。典御十方舉威靈而無上。



顏勤礼碑（楷書）

漢字条幅部

第二種 半切に写真掲載の中から14文字を臨書

吾前東粗足作佳觀。吾爲逸民之懷久矣。足下何以方復及此。似夢中語耶。



愍楚與彥博同直內史  
省愍楚弟遊秦與彥將。

※ 読人は書かなくとも可  
（読みは書かなくとも可）

たひのちまし

あ  
け  
よ  
う  
こ  
と  
い  
つ  
わ  
ま

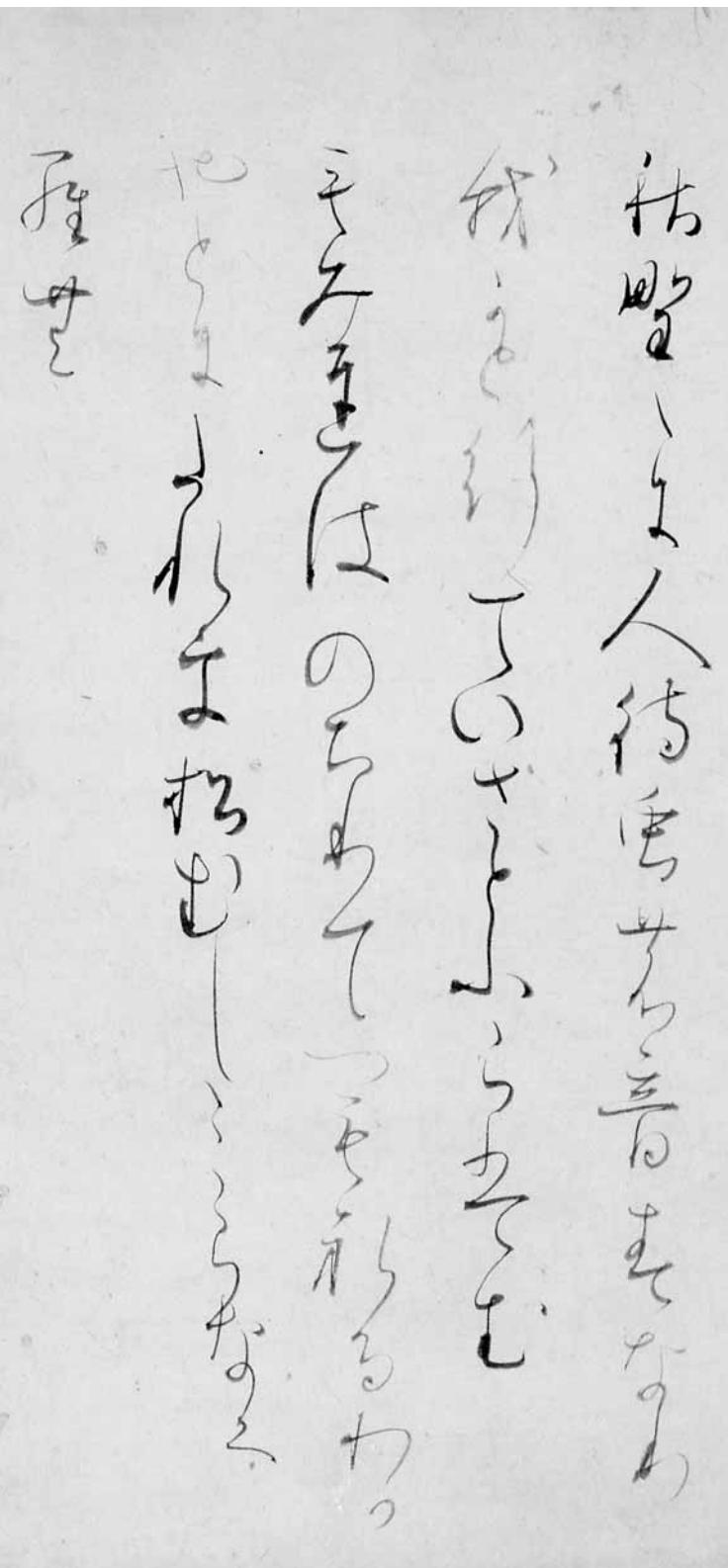
じ  
ら  
け  
み  
え

山  
小  
ち  
わ  
よ  
は  
つ  
ま

ま  
ち  
て  
た  
ま  
み  
さ  
め

あ  
し  
た  
づ  
の  
ひ  
と  
り  
お  
ぐ  
れ  
て  
な  
く  
こ  
ゑ  
く  
も  
の  
う  
へ  
ま  
で  
き  
こ  
え  
つ  
が  
な  
む

※ 図版は原寸



※図版は原寸

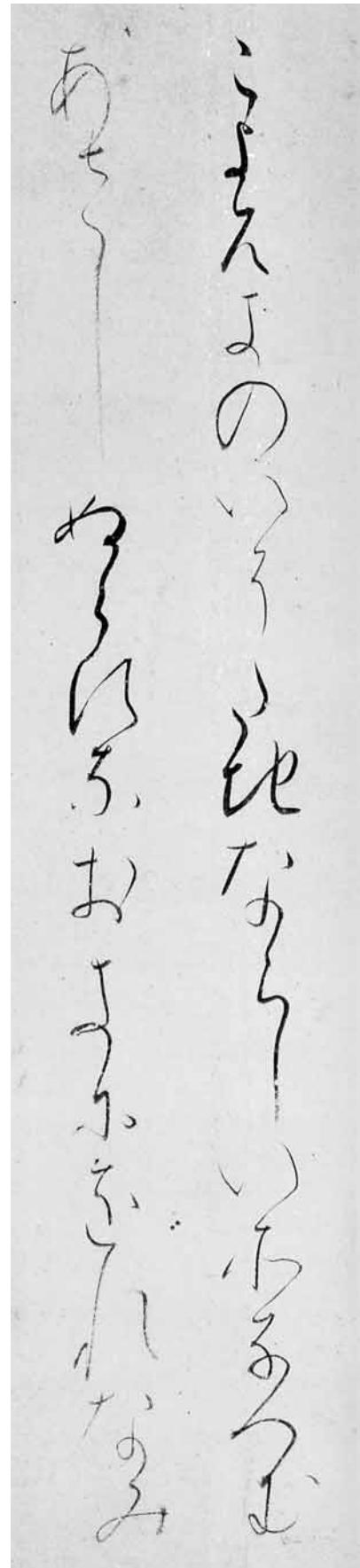
ら縄 も毛 秋 の 野  
む牟 み 遇 人 待 虫 の 音 春 利 可  
みちばの ちりて つもれわ わが やどに  
利毛 札 可 やれを 松むし こゝらなく  
かと行 いざとぶらはむ 繩

高野切第一種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く（料紙可）



呂支 曾多地 所奈  
こよろぎのいそたちならしいそなつむ／あざしぬらすなおきにをれなみ  
須奈 支尔

※図版は原寸

ご注意//

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- 創作は○○書と書く。
- 臨書は○○臨と書く。
- ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いすれも印のみも可。

# ●篆刻

**【八月十五日締めきり】**

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

- ① 墓刻 (7課題による語句)
  - (イ) 原印自由
  - (ロ) 出品の際、原印のコピー添付
  
- ② 創作 語句自由



## 7月号 墓刻課題

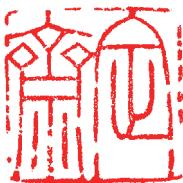
- 印面の大きさは3.4cm (八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

## 721号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

墓刻

### <特選>



「定齋」

創作



「鐵眼」

### (墓刻)

北日	研水	附大雲	秀作(60音)
成田	久保村	小沢	華仙
能喜	南城美	能喜	
生	大網	遊雲	芳琴
(選外1名)	吉原	大雲	やま
慈水	高橋	遊雲	小野寺幸喜
空堅	片岡	橋本	彩香
秀作(60音)	豪峰	中川	清麗
	進申	研治	

細部にわたり原印を観察しつつかりと臨摹している。運刀も秀逸。

### ◎篆刻部総評

今回は墓刻、創作ともに秀でた作品が多く、審査に時間を要した。ただ中には未だ篆刻そのものを理解出来ていない作品も散見された。

### (創作)

坂本	阿部	秀作(60音)
伊澤	秀惠	
覚山	香雅	
雨愁		
(選外なし)		
京橋	四枝	遊水
香繁	花莖	唯一
宮内	辻田	遊雲
川	塚田	相川
内	高橋	赤星
成	昌伸	逢沢
	清琳	治舟
	翠美	唯一
	隆子	文庵
		空華
		昌伸

構成に独自の雰囲気があり刀意も相俟つて群中の白眉となつた。

(大峰評)

### 送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	

1部～9部までの1回の郵送料  
お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

### 定価

一部 七五〇円

令和三年七月一日発行

編集兼

発行人

辻元洋一(大雲)

アーティスト

印 刷

小沢写真印刷

株式会社

リソングス

発行所

公益財團法人書道芸術院

東京都千代田区東神田一一六七

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

振替

00150-41350558

ホームページ <http://www.lmns.co.jp/shohei/>

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

東京都千代田区東神田一一六七

東神田プラザビル三階

101-0031

公益財團法人書道芸術院

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

- 出品方法
- 用紙の右側に押印し、左側に印影の証文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。